

山口情報芸術センター [YCAM] 展覧会

「MEDIA/ART KITCHEN YAMAGUCHI— 地域に潜るアジア：参加するオープン・ラボラトリー」

2014年7月5日（土）— 9月28日（日） 10:00 — 19:00 入場無料
山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ、スタジオB、2階ギャラリーほか

地域社会における「メディア」と「アート」の新しい可能性 — アジアのアーティストと市民との協働を生み出すラボラトリーがYCAMにオープン！

山口情報芸術センター [YCAM] では、アジアの若手アーティストの地域社会に根差した取り組みを紹介する市民参加型の展覧会「MEDIA/ART KITCHEN YAMAGUCHI— 地域に潜るアジア：参加するオープン・ラボラトリー」を開催します。本展は昨年、日・ASEAN友好協力40周年記念事業の一環として、東南アジア4ヶ国で開催された国際交流基金主催の展覧会を出発点に、YCAMがコミュニティ・デザインの視点から発展させる関連企画で、日本のほかインドネシア、シンガポール、マレーシアからアーティストが参加します。会場にはアーティストごとに「ラボラトリー」と呼ばれる空間が設けられ、ここを起点に市民との対話を通して農業や林業、歴史、文化といった地域固有の課題と資源についてリサーチをおこない、随時開催するワークショップなどを通じてメディアやアートによる生活の新しい可能性を描き出すための実践を展開します。山口市民と多様な文化的背景を持つアーティストたちとの出会いと協働を促す本展は、山口の創造的なコミュニティを新たに生み出すことになるでしょう。この機会にぜひご参加ください。



参加アーティスト、ヴェンザ・クリスト（左）のリサーチの様子（2014年3月）

■ 参加アーティストとラボラトリー

バニ・ハイカル（シンガポール）

「山、海、街 — 音のラボラトリー」

HONF Foundation / ヴェンザ・クリスト（インドネシア）

「竹のラボラトリー」

オペラシ・キャッサバ（マレーシア）

「食物のラボラトリー」

田村友一郎（日本）

「地域文化のラボラトリー」

YCAM 地域開発ラボ（日本）

「メディア・テクノロジーと地域を繋ぐラボラトリー」

ワークショップ、ミニレクチャーなど随時開催予定

<http://mak.ycam.jp>

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

[お問い合わせ]

山口情報芸術センター [YCAM] 学芸普及課

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 メールアドレス: press@ycam.jp ウェブサイト: www.ycam.jp

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

「竹のラボラトリー」— HONF Foundation (インドネシア)



リサーチのため、山口市阿東地域の農家を訪問するヴェンザ・クリスト (写真左)
(2014年3月)

「HONF Foundation (ホンフ・ファウンデーション)」は、1999年にヴェンザ・クリストをはじめとした数名のアーティストにより、インドネシアのジョグジャカルタで設立された、テクノロジーとアートのためのラボラトリーです。あらゆる立場の人に向けて開かれていることが特徴で、アーティストや科学者などの専門家、活動家、教育機関、学生などが関わることで膨大なアイデアを創出し、プロジェクトとして実現させています。

近年では東南アジア初のファブラボ「HONFabLab (ホンファブラボ)」を設立し、実際に地域社会で機能する仕組みを創出する活動をプロトタイプレベルから展開しており、特に自給自足型のエネルギーモデルをベースとした農村プロジェクトや、低コストで作成が可能な義足の開発などは、世界的に高い注目を集めています。

本展では、山口市の中山間部で大量に自生する「竹」に注目。竹は日用品や建物などの原材料として利用されている一方で、その成長のスピードゆえに整備されない竹林が、農地や宅地を浸食してしまうという問題があります。そこで、彼らは竹林を整備する過程で得られた竹をもとに、人が集うことのできるカフェをつくることを計画しています。このほかラボラトリーでは、竹を元にしたエネルギー源や、新しいプロダクトの開発プランの提案など、多岐に渡る竹の利用方法を実験し、情報の共有をおこなうほか、ワークショップを実施していきます。また、ヴェンザ・クリストはスタジオBにて、竹で制作したスピーカーによる作品展示をラボラトリーと連動するかたちでおこないます。

「食物のラボラトリー」— オペラシ・キャッサバ (マレーシア)



リサーチのため、山口県立大学の安溪遊地氏、貴子氏を訪問するオペラシ・キャッサバ (両脇)
(2014年4月)

「オペラシ・キャッサバ」は、リム・コクヨン、ヤップ・ソービンらによって始められた、食物のキャッサバを通じてマレーシアの文化的アイデンティティを探るプロジェクトです。

日本ではタピオカの原料として知られるキャッサバは、東南アジアをはじめ、南米やアフリカでは極めて一般的な食材のひとつです。東南アジアには南米から持ち込まれ、その後イギリスによる植民地支配下の時代に、でんぷん粉の工業製品としての利用目的で生産量が一気に増大し、さらには第二次世界大戦中に旧日本軍が東南アジアで主食の米を独占してしまったため、現地の住民の主な食料になったという、東南アジアの歴史を象徴する食物としての側面も持ち合わせています。

このような背景を持つキャッサバは、様々な民族と宗教を抱えるマレーシアにおいても広く普及しており、それぞれの民族の特徴に合わせてローカライズされる一方で、多民族の間に共通したキャッサバの記憶があり、民族間を繋ぐものの象徴として捉えることもできます。オペラシ・キャッサバはこうした歴史や状況を踏まえ、インターネットを利用して、人々からキャッサバにまつわる個人的な記憶を集めることにより、マレーシアの文化や、歴史的な背景を描き出す試みを展開しています。

本展では、ラボラトリー内に畑をつくり、キャッサバを栽培。栽培や収穫、そして食べることを通して、参加者に他国が持つ記憶と歴史を追体験してもらうほか、畑とキャッサバを中心とした新たなコミュニティを形成し、キャッサバにまつわる新たな体験と記憶を蓄積していきます。

■ キャッサバ



YCAMで栽培中のキャッサバ

キャッサバ (学名: *Manihot esculenta*) は、トウダイグサ目トウダイグサ科イモノキ属の熱帯低木。マニオク、マンジョカとも呼ばれる。

芋はタピオカの原料であり、世界中の熱帯にて栽培される。

作付面積あたりのカロリー生産量はあらゆるイモ類、穀類より多くデンプン質の生産効率が高い。しかし食用とするためには毒抜き処理が必要なことや、毒抜きのために皮や芯を除去した芋はその場で加工しなければ腐ってしまうなど、利用の制約が大きい作物でもある。利用範囲は広く、葉を発酵させて毒抜きし飼料として利用したり、アルコール発酵によりバイオ燃料(バイオマスエタノール)を製造するなどの用途も注目を浴びている。

(Wikipedia「キャッサバ」より抜粋)

その他の参加アーティストのプロフィール

バニ・ハイカル (シンガポール)

ミュージシャン、サウンド・アーティスト。1985年生まれ。文化、言語、音の知覚を検証し、リサーチに基づいたオリジナルの楽器制作などをおこなっている。ミュージシャンとしては、「b-quartet」およびオーディオ・ビジュアル・パフォーマンス・グループ「OFFCUFF」の創設メンバーとして知られる。現在、シンガポールの現代アートセンター「The Substation」にアソシエイト・アーティストとして在籍。国際的に多数の展覧会や公演、コラボレーションに参加している。

田村友一郎 (たむら・ゆういちろう/日本)

日本大学芸術学部写真学科卒業。東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程在籍中。出発点として動画と写真の可能性を一貫して追求するかたわら、映画、インスタレーション、パフォーマンスを含むその他様々なメディアやフレームワークにも活動範囲を広げている。2010年、「NIGHTLESS」で第14回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞を受賞。2012年、同作品が東京都写真美術館にパブリックコレクションとして収蔵されている。

YCAM 地域開発ラボ (日本)

2014年からYCAM InterLabに新たに開設された地域課題に取り組むラボラトリー。これまで作品の制作現場で培われ、蓄積した独自の技術や知見を応用して、地域課題の調査・研究から、コンサルティング、レクチャー、ワークショップなどをおこなうなど、地域社会への貢献を目指す。

開催概要

「MEDIA/ART KITCHEN YAMAGUCHI — 地域に潜るアジア:参加するオープン・ラボラトリー」

2014年7月5日(土) — 9月28日(日) 10:00 — 19:00

火曜休館(祝日の場合は翌日) 入場無料

山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ、スタジオB、2階ギャラリーほか

参加アーティスト/機関:

バニ・ハイカル、HONF Foundation、オペラシ・キャッサバ、
ヴェンザ・クリスト、田村友一郎、YCAM 地域開発ラボ

YCAM 地域開発ラボ共同リサーチ・プランニング: ファブラボ北加賀屋

会場デザイン: dot architects

グラフィックデザイン: UMA/design farm

これまでのリサーチの様子や、会期中のイベント情報などは、
特設ウェブサイトをご覧ください。

<http://mak.ycam.jp>

主催:公益財団法人山口市文化振興財団、国際交流基金アジアセンター

後援:山口市、山口市教育委員会

平成26年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

連携:青森公立大学国際芸術センター青森 [ACAC]

共同開発:YCAM InterLab

企画制作:山口情報芸術センター [YCAM]



関連プログラム**ライブ・コンサート「sound tectonics #14」**

日時：8月2日（土）14:00開演、3日（日）14:00開演

会場：2日＝山口情報芸術センター [YCAM] 全館、3日＝スタジオA

出演：大友良英FENオーケストラ

大友良英を中心としたアジアのミュージシャンにより構成されるのバンドのライブパフォーマンス。

ワークショップ

日時：8月8日（金）、9日（土）※各日完結 会場：ホワイエ

講師：ファブラボ北加賀屋（日本）、HONF Foundation（インドネシア）、スージー・スレイマン（マレーシア/DA+C Festival プロデューサー）＋会田大也（日本/東京大学大学院特任助教/元・YCAMエディタール）

※要申込（申込受付開始日6月7日）

国際シンポジウム**「Localizing Media Practice — 地域化するアートの未来」**

日時：8月10日（日）13:30－17:30 会場：ホワイエ

パネリスト：スージー・スレイマン、イ・スジュン（韓国）、ヴェンザ・クリスト（インドネシア）、シュレイアス・カルレ（インド）

モデレーター：会田大也、阿部一直（日本/YCAMチーフキュレーター）

※要申込（申込受付開始日6月7日）

連携企画

本展の連携企画として、青森公立大学国際芸術センター青森 [ACAC] にて「MEDIA/ART KITCHEN AOMORI」が開催されます。

夏のアーティスト・イン・レジデンス2014**「MEDIA/ART KITCHEN AOMORI—ユーモアと遊びの政治学」**

会場：青森公立大学国際芸術センター青森 [ACAC]（青森県青森市合子沢字山崎152-6）

滞在制作期間：2014年6月1日（日）－9月19日（金）

展覧会会期：2014年7月26日（土）－9月15日（月・祝）

オープニングトーク：2014年7月26日（土）14:00－16:00